

特集 体験型観光のススメ

～観光客を呼び込む福井の魅力づくり～

北陸新幹線の県内延伸が1年後に迫っている。多くの観光客が福井に来県することが予想されるが、私たちはどのように観光客を迎え入れるべきだろうか。

今、地域ならではのアクティビティや文化、伝統を体験する体験型観光（コト消費）が人気を博している。今回は観光客を迎え入れるコンテンツとして、福井の食や産業を活用した体験型観光について特集する。

新幹線延伸は絶好のビジネスチャンス

まずは、今後の県内への観光客数の見込み、そして体験型観光の現状について確認してみよう。

北陸新幹線県内延伸による入込客数は、首都圏と関西圏から年間約80万人増加すると推計されている。
(図1)

表1 北陸新幹線県内延伸による経済効果の推計

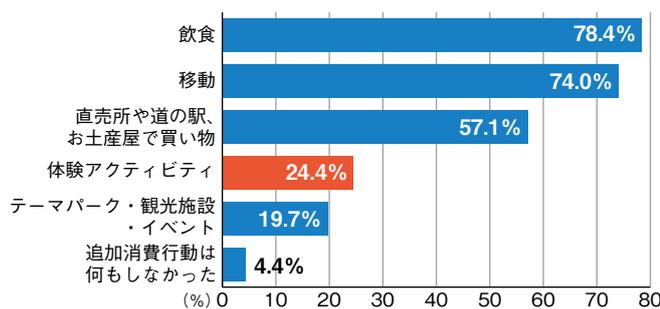
		増加入込数① (千人)	消費単価② (円/人)	経済効果①× ② (億円)
首都圏 (全輸送機関)	ビジネス	359	23,230	83
	観光	355	25,411	90
	計	713	-	173
関西圏 (鉄道)	ビジネス	32	25,230	7
	観光	39	25,411	10
	計	72	-	17
首都圏+ 関西圏	ビジネス	391	-	91
	観光	394	-	100
	計	785	-	191

【出典】日本政策投資銀行「北陸新幹線敦賀開業による福井県内への経済波及効果」

加えて、アフターコロナに合わせ、観光需要、そしてインバウンドも回復傾向にあり、新幹線延伸と併せて県内への観光客数は大きく増加することが期待される。

他方、体験型観光については旅行者の多くが行う追加消費行動として

グラフ1 旅行中の追加消費行動



【出典】「じゃらん宿泊旅行調査2022」(リクルートじゃらんサーチセンター調べ)

定着しつつあり、旅行者の約4人に1人が旅行中に「体験・アクティビティ」を行うと回答し、旅行中の消費総額の約1割を占めるなど、観光における有力な市場へと育っている。(グラフ1)

福井商工会議所では、福井市やJR西日本などと協力して、県内の体験観光を取りまとめたガイドブック「福井旅の体験手帖ふくのね」を発売している。今回は、ふくのねを活用して体験型観光を提供し、県内外に魅力を発信している事業所に話を伺った。

自社のブランディングに体験コンテンツを活用



エイトリボン(株)エイト
工場長 松川 享正 氏



エイトリボンは越前織の産地である坂井市丸岡町に所在するリボン工場である。ジャガードリボンや織ネーム等の商品をシャトル織機で生産し、リボンメーカーへの提供やOEM生産を行っている。同社では、7年前に工場を承継した松川享正工場長が中心となり、体験型観光のコンテンツ作りに取り組んでいる。体験内容として自社工場の見学やリボンを使用した雑貨製作のワークショップを開催している。

リボンの生産工場を 四感で楽しむ

同社の工場見学は、四感（視覚、聴覚、触覚、嗅覚）で楽しめることが特徴だ。中でも織機を実際に動かすことができる体験が好評を博している。普段は触れることがない機械に触れる非日常体験を楽しみながら、リボンの作り方を順に説明していく。参加者にリボンの生産工程について学んでもらいつつ、「何かを思い出に持ち帰ってほしい」という思いで、体験コンテンツを提供している。



歴史ある機械を動かすことができる

約4年前から提供し、これまでに約400人が参加、直近1年間だけでも約300人を数える。平日は中高年の夫婦、休日には家族連れが多い。また地域の小学校の校外学習先としても児童を受け入れ、観光客だけでなく、地域にも伝統や技術を、体験を通して広めている。

体験観光を意識することで 本業にも効果が波及

松川氏が工場を引き継ぎ、工場のリノベーションを行った際には、観光客の迎え入れを考慮するなど、経営戦略の一つとして体験観光を意識している。また、見学用の設備導入など環境を整え、受入態勢の強化として工場に隣接する形でカフェも現在準備中だ。

松川氏が体験観光を始めたきっかけは、経営を引き継いだ際に自社工場が「人を呼べる場所だ」と可能性を感じたことだ。ちょうどその頃「ふくのね」を紹介されたのをきっかけに、本格的に受入態勢を整備し、内容

を充実させた。体験型観光は、一般の方にも旅行コンテンツとして認知されてきた今が取り組みの好機だと語る。

松川氏は今後もコンテンツを拡充、深掘りさせていきたいと語る。北陸新幹線の延伸に向けて県外客や外国人の来県が期待できる中で、体験観光が結果的に企業の宣伝にも大きく寄与すると見込んでおり、今後の本業への相乗効果に期待する。継続的な企業発展のためにも、体験コンテンツを使って宣伝集客を強化し、「付加価値として活用しながら自社のブランディングを行っていききたい」と語った。

体験コンテンツで足羽山に賑わいを呼び戻す



足羽山 あたらし ATARASHIYA
店主 新谷 眞久 氏
女将 新谷 和代 氏



足羽山 ATARASHIYA は明治23年創業、福井中心部の足羽山に店舗を構える老舗茶屋だ。2年前に店舗をリニューアルし、足羽山の茶屋文化として親しまれる豆腐田楽やみそこんにゃくおでんを提供。その傍らランチやスイーツにも力を入れている。昨年の秋から、豆腐田楽とみそこんにゃくおでんの手作り体験を提供している店主の新谷眞久氏と女将の新谷和代氏に話を伺った。

福井にこだわった食体験は
追体験であり新体験

体験で提供される食材や商品は、豆腐や味噌、セツトの煎茶まで福井県産にこだわっている。豆腐田楽やみそこんにゃくおでんは足羽山で長く築かれてきた食文化。桜の名所でもある足羽山ではお花見の相棒でもあり、参加者は福井の食文化の一端を体験することができる。この食体験は、シニア世代にとっては懐かしく、若い世代にとっては目新しいものである。二人は「足羽山という街の中心にあ

る自然の中、特別な場所で特別な体験を味わってほしい」と思いを込める。



調理は非常に簡単で、子供でも安心して体験できる

伝統文化を広め、伝える

体験コンテンツを始めたきっかけは、足羽山の伝統的食文化を広く伝えていくためだ。以前はお花見などで観光客があふれた足羽山であるが、近年ではレジャーの多様化により人足が鈍り、更に店を閉じる茶屋も続き、豆腐田楽等の食文化も廃れてしまふ危惧がある。「この美味しい食文化を残していきたい」そんな想いから生まれたのが、豆腐田楽とみそこんにゃくおでん

の手作り体験だった。これまでの参加者からは「家族一緒に福井の食文化を体感できて楽しかった」など高評価を得ており、ポテンシャルを感じている。体験コンテンツを活用して伝統をつないでいきたいと語る。

非日常の提供から
足羽山を観光地に

新幹線の延伸により福井への観光客増加が見込まれる中で、女将は「足羽山を観光地として盛り上げたい」と話す。「体験」だけでなく「歴史」の解説など非日常体験を充実させ、足羽山の文化を継承させたいという。足羽山は誰もが登れる身近な山である一方、登ってきてもらうための魅力を発信する必要がある。足羽山には同店以外にも複数の茶屋等の飲食店、博物館や動物園などが点在している。それらと連携しながら、足羽山全体が観光客を迎え入れ、そして文化を残していける取り組みの一つとして、体験コンテンツを活用したいと意気込む。

福井ならではの魅力を知り、発信する

北陸新幹線運行の当事者でもある西日本旅客鉄道(株)(JR西日本)金沢支社福井営業支店の小坂尚人副支店長に観光の現状と北陸新幹線を迎える体制、体験型観光のあり方について話を伺った。



JR西日本金沢支社福井営業支店 小坂尚人 副支店長

旅行需要は少しずつ回復傾向にある。JR西日本でも誘客促進に向けた様々な取り組みを行っている。旅行需要が回復する中で、新幹線の福井県内開業による効果は計り知れない。多くの観光客が来県し、福井の魅力を知っていただく絶好のチャンスになると考えている。

「迎え入れる側が取り組むべきことは、まず、自分たちが「福井の良さ」を語れるようになることだ。福井に眠る未知の観光資源を見つけ、深掘りして欲しい。そこで、体験型観光は地元のことを知る上でも非常に有効である。新幹線でも来県する観光客に、福井ならではの歴史や文化、自然など、しっかりと地元の良さを紹介できるように努めてもらいたい。」

次に観光客が体験型観光に求めるものは、自身の知識を高めたり、

非日常から何かを得たりすることだ。体験客に満足してもらうため、「おもてなし」など受入態勢をしっかりと整備し、「福井ならではの視点」を盛り込みながらコンテンツを組み立てることが重要だ。

また、どれだけ魅力あるものでもそれをしっかりと広報できなくては意味がない。そこで役立つのが「ふくのね」への登録である。「ふくのね」は体験コンテンツを登録するために専門家からのアドバイスをもとめる機会があるなど、比較的簡単に体験コンテンツを広報することが可能だ。

魅力あるコンテンツは私たちの日常の中から生まれるものであり、来県客が増加するこの絶好のチャンスは是非活かしてほしい。

ふくのねに関するお問合せはこちら
福井商工会議所 地域事業・観光振興課
0776(33)8253

自身のお店が

「福井の魅力」に

体験型観光のコンテンツは必ずしも特殊な取り組みを必要とするものではない。何気ない普段の取り組みが地域や世代の異なる人々には新鮮に映ることも多い。福井には多くの魅力が日常の中に潜んでいる。そこを深掘りしながら福井ならではの文化や食といった「味付け」を加えることが必要だ。自社にとっての日常が観光客にとっては特別な体験となり、結果的に自社ブランド向上のチャンスにもなる。新幹線開業に向けて体験コンテンツの活用に取り組んでいただくことが「福井の魅力」を深める第一歩だ。

また、読者の方には、県外からの観光客を迎えるにあたって、「ふくのね」を参考に地元の様々なコンテンツを実際に体験してみてもらいたい。それが、福井の良さの新発見や再認識にもつながり、説得力を持って福井ならではの魅力を来県者に伝えることができるのだ。